

米軍基地に反対する実行委員会の活動報告

大森進（東京労組・実行委員会事務局長）

<12・13 横田第二ゲート前抗議申入れ行動>

12月13日に、米軍が横田にオスプレイ配備を計画している事に抗議して、午前10時～11時まで、参加者50名で横田第二ゲート前に結集して、米軍基地と自衛隊に対して申入れ行動を行い、さらにゲート前で集会を行いながら基地撤去・オスプレイ配備反対の怒りの声を上げて、抗議申入れ行動を貫徹してきました。

<5・29 基地学習会の取り組み>

沖縄の反基地支援行動だけではなく、本土での基地の闘いを学び、闘いの連帯行動を構築して行くために、5月29日に学習会を企画してきました。50名の参加者が参加する中で、まず岩国基地の闘いと報告がなされ、岩国基地が今後米軍海兵隊の極東最大の基地になる計画が着々と進められている事が話されました。神奈川からは、広大な範囲で基地が点在している事と、各地域での闘いが紹介されました。東京の横田基地からは、5月初めに米軍が2017年までに特殊作戦部隊のCV22オスプレイを10機配備すると正式発表されたことを受けて、多くの資料を事前に準備して頂き、とりわけCV22オスプレイは墜落事故が多いことも詳しく報告され、配備反対の闘いを強化していく事を強く訴えた報告がされました。本土での基地強化が進んでいることを、全体で学習することが出来たことと、内容のある学習会に取り組んで来ることが出来ました。

<6・20 横田集会・デモの取り組み>

米軍横田基地にCV22オスプレイ配備が報道され、危機感が強まる中で横田集会・デモが、6月20日実行委員会の呼びかけに答えて200名の労働者・市民が結集して闘われました。瀬瀬委員長の力強い闘う決意表明を受けて、東京全労協の各団体や地域の労働組合と市民団体の決意表明を受けてきました。絶対にオスプレイ配備を阻止していく事と、基地撤去の闘いを沖縄の闘いと共に連帯して闘っていく事を、集会参加者全体で確認されました。デモでは、横田第二ゲート前で、横田基地と自衛隊に抗議申入れ行動を行いました。警察の妨害と、横田基地の不当な申入れ拒否行動に抗議の声を強く上げながら、最後までデモ行動を貫徹し成功させてきました。

<沖縄辺野古支援行動の取り組み>

沖縄現地支援行動に取り組んできました。東京全労協として4月12～14日までに5名、8月15日～18日までに3名、それに米軍基地に反対する実行委員会も協力して参加してきました。実行委員会として賛同団体費の財源から、辺野古と高江に各20000円のカンパも手渡してきました。ゲート前テントに泊まり込みながら、トラック搬入阻止闘争や海上行動にも取り組んできました。ゲート前集会では、お年寄りを中心に元気に歌を歌いながら、笑いながら楽しく取り組んでいます。しかしゲート前のデモ行動では、新基地建設は断固阻止する決意と怒りを基地に向けてぶつけています。

今沖縄では、翁長知事の承認取り消しに対して、政府は地方自治法に反して取り消しの取り消しをするという、いわば法治国家にあるまじき行為を不当にもあからさまに行っています。そして、沖縄県民の民意を無視して安倍政権は辺野古新基地建設本工事を強行して来ています。反対する市民運動の被暴力行為に対して、本土から100名の機動隊を増員するなど、ゲート前で機動隊の暴力での排除と言う妨害行為を行っています。海上では、抗議船やカヌー隊に対して、海上保安庁の暴力的排除が現在も続けられています。これからますます闘いが激化していくと予想されますが、政府の基地問題における沖縄差別や辺野古新基地建設は絶対阻止して行かなければなりません。今後も沖縄支援行動の強化がより一層求められています。本土の米軍基地反対の闘いと連動した闘いとして、東京全労協を中心とする、米軍基地に反対する実行委員会は全力で反基地運動に取り組んでいきます。